

パッケージ型鋼板製消化タンク

① 建設工期の短縮

(RC製消化タンクと比較)

- ・槽基礎工事と並行した鋼板工場プレハブ製作
- ・土木機械同時発注も可能

② 事業計画に合わせた柔軟な改築

- ・耐用年数20年 (槽本体のみ)
定期的な補修を行うことで、35年以上の運用も可能
 - ・設備規模 (タンク容量): ~9,000m³/基
 - ・内面塗装はA種およびD種品質規格※の規定に準拠した方法で評価されたものを用いる
- ※「下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル 平成24年4月」(日本下水道事業団)
- ・社会動向・人口推移の**変化に適した改築が可能**

③ 攪拌動力の低減

- ・インペラ式攪拌機 動力投入密度1.0W/m³以下

鋼板製消化タンク 5,800m³×1基 Φ21m×22mH
消化槽攪拌機 7.5kW(VVVF)



パッケージ型鋼板製消化タンク

④ 消化タンクの運転支援

④-1 堆積物測定・排出運転

- ＜従来＞ 堆積物の高さ・量・形状の確認が難しく、蓄積する場合があった。
- ＜本技術＞
- ・堆積物高さの測定が可能
 - ・堆積物排出運転で有効容量確保

④-2 トラブルの未然防止

- ＜従来＞ 槽内の状況が確認できず異常の察知が難しかった。
- ＜本技術＞
- ・温度ムラ検知⇒槽内汚泥均一化
 - ・異常発泡の早期確認・処置
 - ・MAP発生時も運転を継続 等

④-3 定量的な長寿命化診断

- ＜従来＞ 槽内塗装の経年変化の有無を浚渫後しか確認できなかった。
- ＜本技術＞ 運転停止や、浚渫することなく内面塗装変化や槽側面板厚測定が可能

鋼板製であることを活かし、センサ類を使用して消化タンク内の状況を可視化

